

令和5・6年度 府中市教育委員会 研究奨励校



令和6年度 研究発表会

研究主題
主体的に学び続ける児童の育成
～ 「見通す」「振り返る」ことを通して ～



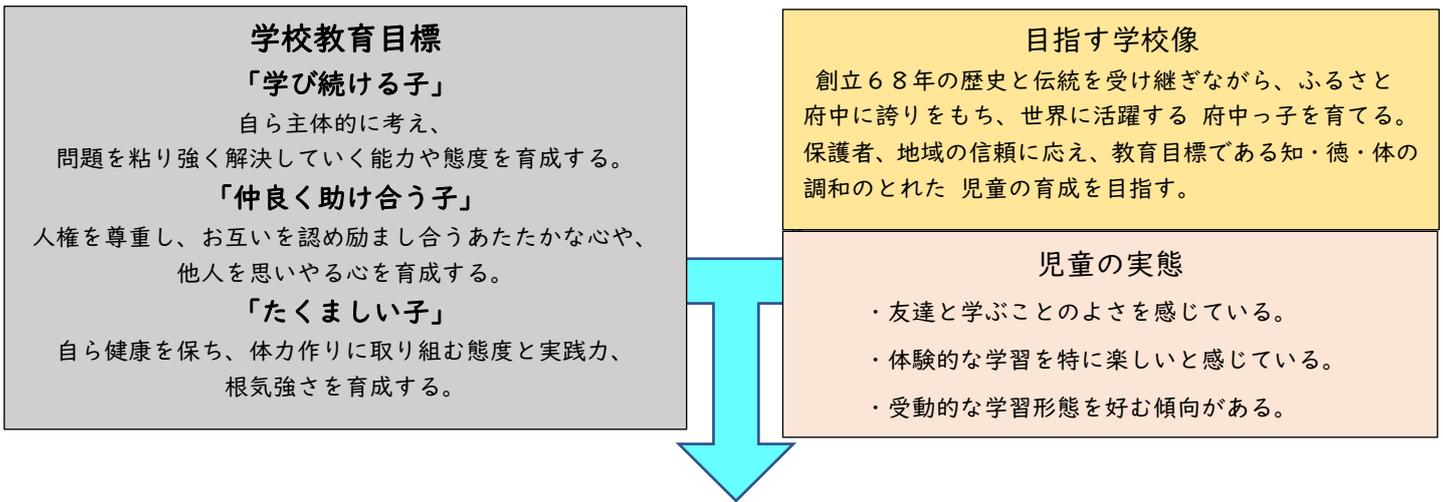
学びの山に登ろう

校長 松下 雄太

本校の研究は、子供たちが主体的に学ぶ授業づくりの研究です。授業の中で、子供たちから、よい気づきを引き出し、主体的に取り組めるような足場架けをすることができたかを議論しながら、手探りで研究を進めてきました。そして、実際に子供たちが、自ら疑問を発見し、それを解決しようと友達と対話する姿や、タブレットに撮りためた映像や文章を見ながら、自分で取り組む学習を決定している姿に出会い、確かな成果を感じています。研究はまだまだ途上ではありますが、すべての子供たちが、目標に向かって、学びの山を登っていくことができれば、本校の教育目標である「学び続ける子」に到達できると考えています。

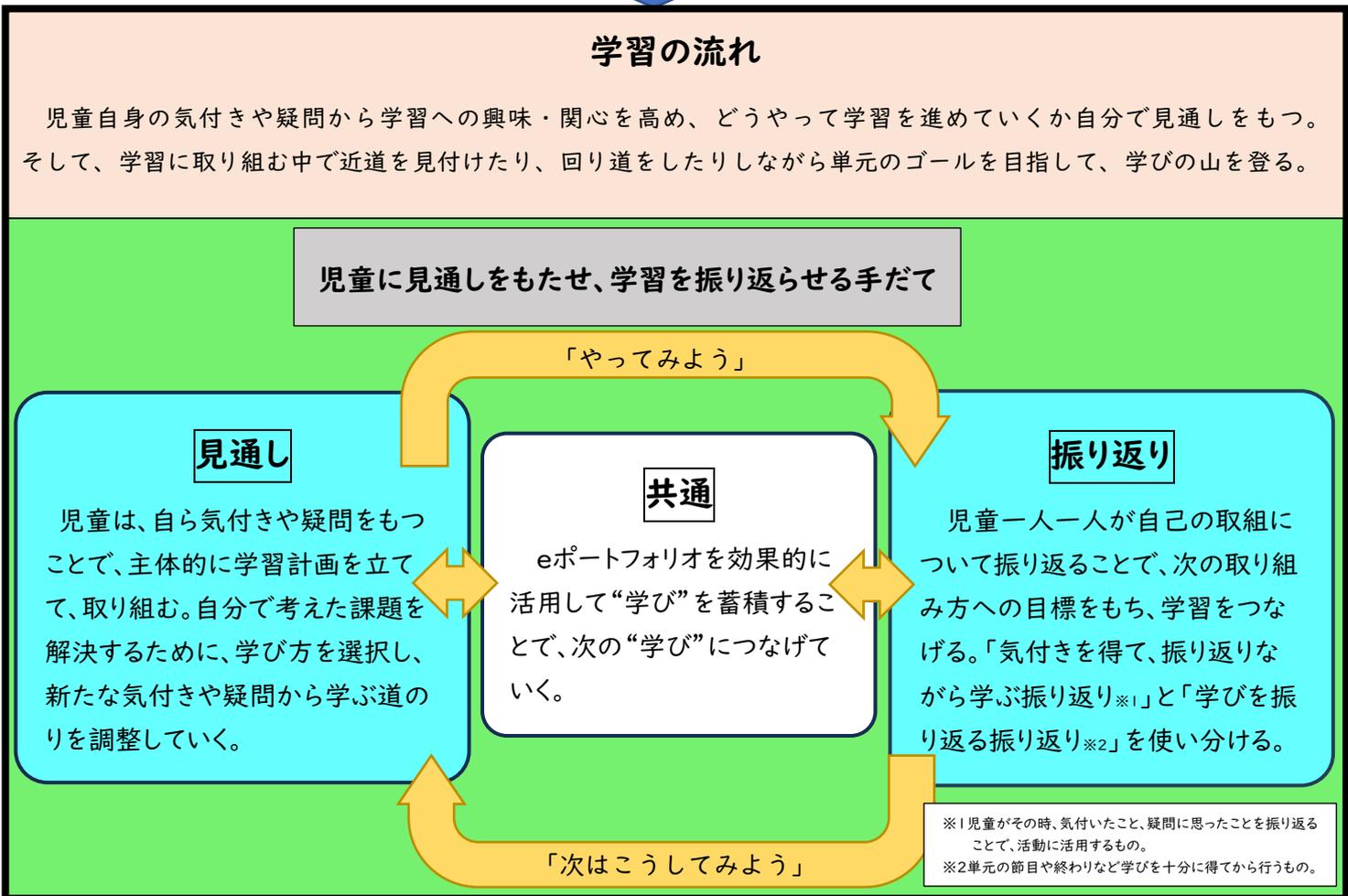
令和7年1月24日（金）
府中市立府中第八小学校

所在地 〒183-0014 東京都府中市是政1丁目34番地
電話 042-361-9008



研究主題
主体的に学び続ける児童の育成
～「見通す」「振り返る」ことを通して～

主体的に学び続ける児童の姿
○学ぶことに興味や関心をもつ。 ○見通しをもつ。 ○粘り強く取り組む。
○自分と結び付けている。 ○振り返って、次へつなげる。



見通し

2年生

きづぎもん

算数科「形はかせになろう」

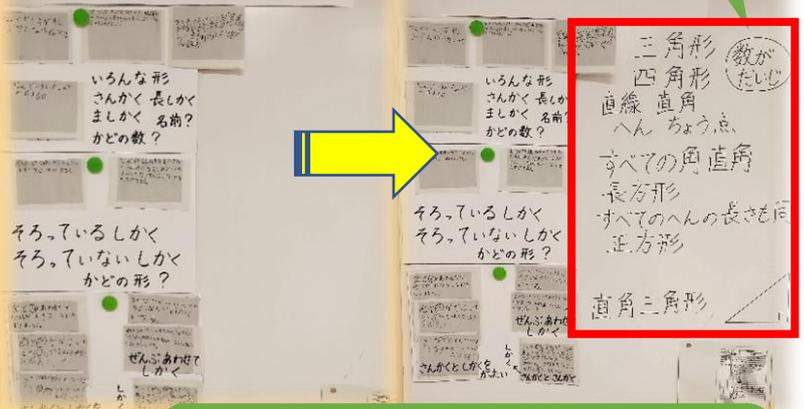
単元の始めに、児童が気付いたこと(はっけん!)と、児童が疑問に思ったこと(どうして?)を「きづぎもん」として出し合い、学習の見通しをもったグループから全体へ共有し、児童の疑問を解決する形式で授業を進めた。

子供が考えた「きづぎもん」

全員で気付いたことや疑問をまとめます。

形はかせになろう。

形はかせになろう。



これまでのマイノートを振り返り、今回の単元で学びたいことを話し合ってからスタートします。

3年生

児童が発見する課題

国語科「すがたをかえる大豆」

単元の始めに、全文を読むと「前に学習した『こまを楽しむ』と文の形が似ている。」と児童からの声があがった。そこで、どんなところが似ていると感じたか話し合ったり、『こまを楽しむ』のマイノートで振り返ったりして、「すがたをかえる大豆」の構成を予想した。予想で意見が別れたところを詳しく読んでマイノートを作り、確かめようというめあてを立てて学習がスタートした。

「こまを楽しむ」と文の形が似ているね。

はじめ、中、おわりになっていそうだよ!



共通

1年生

eポートフォリオ

生活科「はなを さかせよう」

従来のポートフォリオであるノートやワークシート、観察カード、作品などを、タブレット端末に写真として保存した。単元間だけでなく学年を超えた既習事項の確認ができ、以前の学習を振り返った上で、今後の学習を見通すことにもつながった。

ふたばが出たときうれしかったよ。



気になったら写真を振り返るようにします。

振り返り

気付きの付箋

社会科 「水はどこから」

児童が調べる中で新たなことを発見したり、友達の発言から自分では気付かなかったよい考えを見付けたりしたとき、「いいねカード」という付箋に記録した。それをノートに貼っていくことで、自分の気づきが視覚化され、自分の考えに加えたり最後の振り返りに生かしたりできるようにした。



そこに気を付けているなんてすごいな！あとで自分の考えに入れよう。

どの瞬間にいいね!と思うかわからない！いつでもどこでも書くように意識付けました。

まなビジョン

社会科 「水産業のさかんな地域」

毎時間の振り返りとは別に、単元を通した体系的な学びとして自己の学びを振り返る活動を「まなビジョン」として行った。スプレッドシートに記録する活動を継続し、これまでの「まなビジョン」を見返して単元間の学びのつながりに気が付けるようにした。単元を通した学習の流れをホワイトボードに書き写して可視化することで、学習の過程を振り返り、充実した「まなビジョン」を実現した。



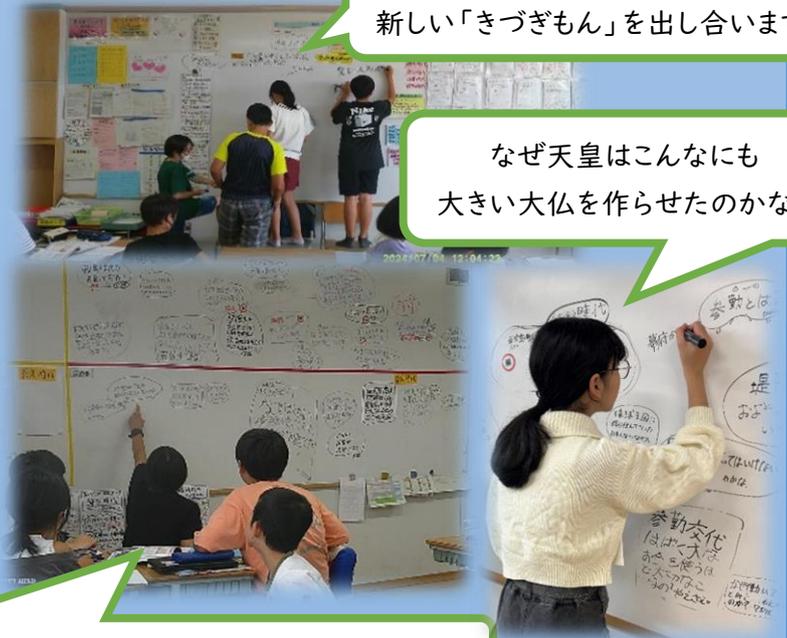
学習の流れを可視化し、学習過程を振り返るようにします。

「まなビジョン」をタブレットに記入

きづぎもん

社会科 「天皇中心の政治」

疑問に思ったことは一人一人が「きづぎもん」としてノートに書き溜めていく活動を行った。「きづぎもん」は前の学習とどのようなつながりがあるのか「振り返りながら学ぶ」ことを目的とした。ホワイトボードや黒板で全体に共有し、グループで話し合う材料にしたことで、振り返りだけでなく、次の単元の「見通し」をもつ上でも効果的であった。



前時の「きづぎもん」とつなげながら新しい「きづぎもん」を出し合います。

なぜ天皇はこんなにも大きい大仏を作らせたのかな？

話し合いながら、気付いたことをまとめていきます。

【成果と課題】

成果

○児童の主体的に学ぶ意識の高まり

本研究に取り組む前の令和4年度全国学力・学習状況調査では、「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。」という質問に対し、59.2%の児童が肯定的な回答をしている。令和6年度の同じ調査、項目では、73.7%の児童が肯定的な回答をしており、15%以上の増加が見られ、研究の大きな成果の一つと考える。

また、令和6年7月に校内で実施した「主体的に学び続ける児童の姿」に関するアンケートでも、肯定的な回答が全項目で80%を超えた。特に、粘り強く取り組んでいるかを問う項目は、93.1%の児童が肯定的な回答をしており、児童の主体的に学ぶ意識を高めることにもつながったと考えている。

○児童が主体的に学びやすくなる授業の流れの確立

児童が単元の始めに気付きや疑問をしっかりと認識し、見通しをもつことで、児童はどのように学んでいくかを選択・調整しながら、主体的に学習を進めることができた。また、学習を振り返ることによって次の取り組み方への目標をもち、主体的に学習をつなげるという流れもつくることができた。

○児童が主体的に学習に取り組むための授業改善

児童の実態から、児童がより主体的に学習に取り組めるように学校全体で協議を重ね、単元計画の流れや学習活動、学習形態、支援についての実践を積むことができ、授業改善につながった。

課題

○学習を自分と結び付ける意識

前述の「主体的に学び続ける児童の姿」に関するアンケートで、おおむね主体的に学ぼうとしている児童が増えている中で、学習内容を自分と結び付けること、特に既習事項と結び付けて考える意識については、全項目が肯定的な回答が80%を超える中、他の項目と比べるとやや低いので、今後、より高めていきたい。

○eポートフォリオのさらなる充実

eポートフォリオを始めてまだ1年程である。児童が前単元の記録を見たり、学習の中で活用したりする姿も見られ始めている。これからもeポートフォリオを継続していくことで、児童自身が学びの記録をいつでも取り出し活用することができる。小学校6年間、さらにその先の学びにもつなげていきたい。

□本校の研究活動にご協力いただいた方々の紹介

東京学芸大学 ICT/情報基盤センター教授

森本 康彦 先生

□本研究に携わった教職員

◎研究開発部主任 ○研究開発部

令和6年度

校長	松下 雄太	3年	相川 雅子	5年	○岡島 謙太	図工	戸屋 久恵
副校長	立川 未奈		大塚 凌平		○長友 幸夫	家庭科	○平久保達弥
1年	毛利 美月		○大塚 美帆		佐々木みなみ	外国語	佐藤 優衣
	柴崎 恵美子	4年	○松江 大雄		齋藤 敦子	養護	徳田 紀恵
	○八木 真美子		○丹羽 隆一郎	6年	高岡 幸子	ひばり	嶋津 大輔
2年	佐々木 真美		三島 桃子		○高橋 沙知		上阪 千尋
	稲葉 早恵		八鍬 恵子		蓮田 光幸		○吉村 梨花
	◎匂坂 孝太				算数	浅井 淳	望月 航
					音楽	○井上 みさ紀	本間 大地

令和5年度

木本 拓	植場 鉄平	松本 直子	五箇野 徹
松崎 亜沙美	鈴木 悠大	小川 大樹	望月 規己子